ACT!

MEDECINS SANS FRONTIERES
国境なき医師団

1999年
ノーベル平和賞受賞

支援者さまと国境なき医師団（MSF）をつなぐニュースレター

2025年2月号

MSFの学校の卒業式に出席した、看護師と助産師たち。（シエラレオネ）

© Vincenzo Livieri

医療が不足する場所で、未来を担う人材を育てる

国境なき医師団の学校

国境なき医師団（MSF）といえば、「緊急援助」という印象をお持ちの方が多いかもしれませんが、実は「学校」も運営しています。MSFの活動地の多くは、紛争や自然災害、感染症の流行などで医療ニーズがきわめて高いにもかかわらず、医療体制がぜい弱で、医療人材を育てる仕組みも整っていません。今号では、医療人材の育成を目指した、MSFの取り組みをお伝えします。

© Alicia Gonzalez/MSF

ケネマ母子病院の基礎看護コースで行われた、感染予防に関する授業。（シエラレオネ）

2023年3月、88人がMSFの学校で2年にわたる基礎看護コースを修了した。（南スーダン）

© Alicia Gonzalez/MSF

患者さんへ質の高い医療を自分たちの力で届けるために

© Alicia Gonzalez/MSF

MSFアカデミーの臨床指導員が見守る中、ケネマ母子病院で子どもの様子を確認する基礎看護コースの学生。

MSFの学校は、医療人材の育成を通して、国境なき医師団（MSF）のプロジェクトで提供される医療の質を向上させ、医療人材が不足している国・地域の医療体制を強化することを目的に設立されました。現地では、MSFアカデミー・フォー・ヘルスケア（以下、MSFアカデミー）と呼んでいます。

例えば、紛争が起こっている地域の人びとは、学校で専門的な知識を得る機会が十分になかったり、知識はあっても病院が不足しているため、臨床経験を積むことが難しかったりします。この状況を改善すべく、2017年にMSFアカデミーが設立されました。

© MSF

MSFアカデミー第1期生の卒業式。指導者と握手を交わし、喜びを分かち合った。

MSFアカデミーには校舎がありません。MSFが活動する世界中の病院で働く医師や看護師、看護助手などが、働きながら、自身が選んだコースの学習に取り組みます。

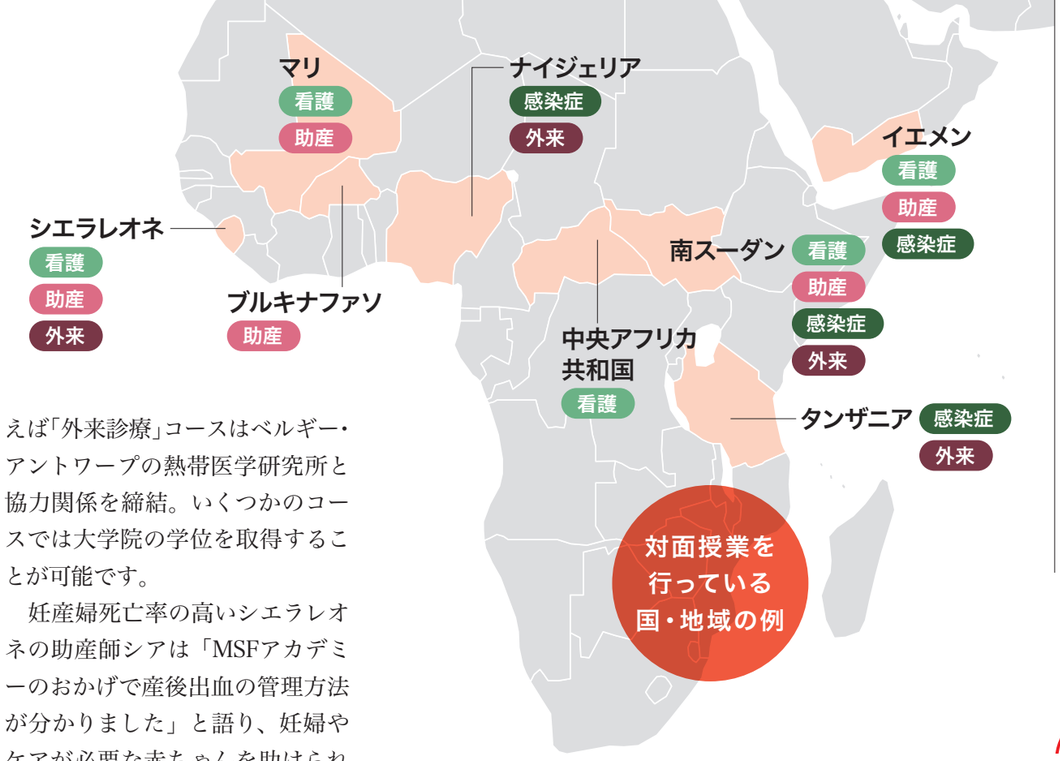
患者さんのすぐそばで実務経験を積む

2024年11月現在、MSFアカデミーでは、MSFの活動においてニーズの高い11のコースを設けています。主なコースは、「基礎看護」「臨床助産ケア」「感染症診療」「外来診療」の4つ。重点を置いているのは、学生が現場で直接学ぶことです。教室での授業やオンラインでの指導もありますが、患者さんのすぐそばで専門的な指導を直接受け、すぐに役立つ実務経験を積むことができるのです。

MSFアカデミーは、当該国・地域の教育機関や保健当局の他に、他国の研究機関や大学と緊密なネットワークを構築しています。例えば「外来診療」コースはベルギー・アントワープの熱帯医学研究所と協力関係を締結。いくつかのコースでは大学院の学位を取得することが可能です。

妊産婦死亡率の高いシエラレオネの助産師シアは「MSFアカデミーのおかげで産後出血の管理方法が分かりました」と語り、妊婦やケアが必要な赤ちゃんを助けられることに喜びを感じています。

いつか、MSFは活動を終了し、地域の病院を去るときがやってきます。自分たちの力でより多くの患者さんの命を助けることを目指して――今日もたくさんの医療従事者がMSFアカデミーで学んでいます。



主な実績（2024年11月現在）※1

学生の分布……世界36カ国

学生……999人

卒業生……1057人

※1 対面とオンラインの授業を含む

代表的な4コース※2

基礎看護

病院で患者さんに看護を提供する医療スタッフの能力強化が目標。看護の基本的な知識や技術を学びます。

臨床助産ケア

病院の助産師の能力強化が目標。妊娠中の女性のケアから産後ケアまで知識や技術を学びます。

感染症診療

現地の医師が感染症の専門知識を学びます。修了者は南アフリカ共和国のステレンボッシュ大学の大学院修了証を取得。

外来診療

患者さんに外来診察を行うスタッフを対象に、診察・診断能力の強化を図ります。

※2 4つのコースの他、「新生児看護ケア」や「手術室看護」、「医療チームリーダー育成」などのコースがあります。

指導者の声

知識を後輩に伝え、地域社会に尽くしたい

© Alicia Gonzalez/MSF

基礎看護

トゥット・リアム
看護師（南スーダン）

私は子どものころ致命的な寄生虫感染症にかかり、ふるさとのランキエンにあるMSFの病院で一命を取り留めた経験があります。入院中、毎日、笑顔で注射を打ちに来てくれた看護助手のモーゼスさんにあこがれ、彼のような看護師になりたいと思いました。

回復後、ウガンダとケニアで学び、助産師の資格を取得し、看護学も学んだ私の最終目標は、自分の村に帰ることでした。MSFと一緒に村で働きたかったのです。

いま、ランキエンの病院に設置されたMSFアカデミーの基礎看護コースで、後輩たちを指導しています。夢をかなえ、自分の知識を生かして地域社会に貢献できていることが誇らしいです。

© Alicia Gonzalez/MSF

基礎看護コースの看護師（右）に指導を行うトゥット（左）。

卒業生の声

1 女性として、助産師として、女性を助けたい

© Alicia Gonzalez/MSF

臨床助産ケア

シア・マリアン・ソルボエ
助産師（シエラレオネ）

© Alicia Gonzalez/MSF

授乳にまだ慣れていない新米のお母さんを助けるシア。

子どものころから赤ちゃんが大好きで、遊びではいつも助産師役になっていました。いま、ケネマ母子病院で助産師をしています。産後出血は妊産婦死亡の大きな原因ですが、正しい技術と知識があればうまく対処することができます。MSFアカデミーの臨床助産ケアコースで学んだことで、自信がつきました。

2 感染症への対応を学び続けて

© Thomas Cytrynowicz/Jugaad

感染症診療

サキナ・アブドゥールラマン
医師（ナイジェリア）

© Thomas Cytrynowicz/Jugaad

生後11カ月の子どもを診察するサキナ。「地域には感染症の患者が多く、どの診療科でも感染症の診療は欠かせない」と話す。

感染症診療コースでは、医師の仕事を続けながら、2年間、オンライン授業や対面での実地研修を組み合わせ、感染症の予防や診断、管理に関する知識を修得しました。私の住んでいる地域ではジフテリアが大流行していますが、迅速に対応できるようになりました。私がMSFアカデミーで得た知識は、地域社会で大いに役立っています。

国境なき医師団（MSF）が取り組む

日本の災害への備え

© MSF

川邊洋三（かわべ ようぞう）

テレビ局国際部記者を経て2008年よりMSFに参加。東日本大震災や能登半島地震でも活動した。

自然災害の多い国・地域において、MSFは緊急援助活動に備え、常に態勢を整えています。日本もその一つです。現在、日本の災害援助の準備を担うMSFスタッフの川邊洋三に話を聞きました。

Q1. MSFは日本で災害が起きたときも活動するの？

A. MSFには東日本大震災や能登半島地震などで活動した実績があります。

災害が起きると、私たちは災害の規模や被災地の状況、政府や民間の支援の動きなど刻々と変わる情報をあらゆるネットワークから収集・分析し、活動方針を決めていきます。このとき、最も重視するのは、日本でも海外でも、被災地の医療ニーズと現地で提供される医療のバランスです。

世界的に見て、日本は医療体制が比較的整っています。医療ニーズを満たすのに十分な官民の支援が見込める場合、MSFは出動しません。支援が届かず、医療がより不足している他の場所へ向かいます。それが皆さまのご寄付を公平に、また最大限生かせる方法でもあるからです。

© MSF

輪島市内で活動するMSFスタッフ

日本での緊急援助活動について詳しくはこちら »

Q2. MSFの強みが発揮できる領域は？

A. 被災地が広範囲に及び、かつ遠隔地を含めて分散していると、行政でも把握しきれない勢いで自主避難所が開設されます。アウトリーチ活動※に慣れていて、機動力のあるMSFは、こうした自主避難所の情報収集や支援に向いています。

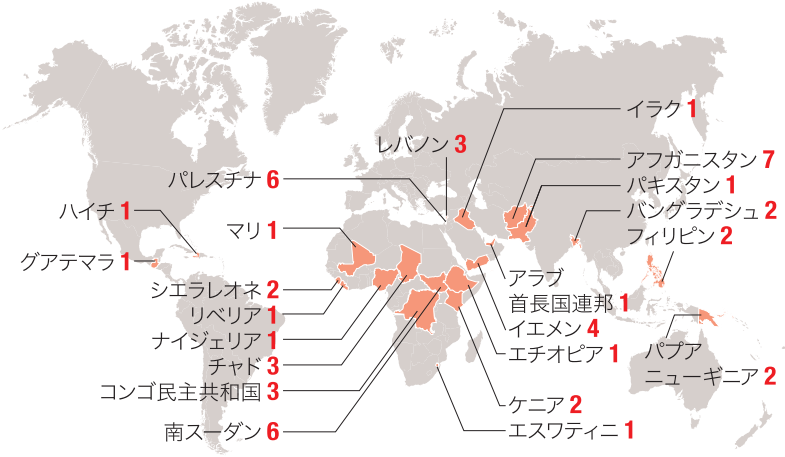
もう一つが「心のケア」です。投薬が必要な精神疾患の方に対する支援は整ってきましたが、家族や自宅、仕事を失って途方に暮れる人びとに寄り添う支援はいまも足りていません。不眠不休で被災者支援に携わる自治体職員へのケアも同じです。制度の隙間を地道に埋めていくような活動では、医療制度が整っていない場所で活動してきたMSFの経験を生かしやすいはずです。

※ 援助を必要としている人びとを積極的に見つけ出し、サービスを提供すること。

Q3. 災害援助の準備は、どんなことをしているの？

A. 日本の災害医療関係者との関係強化、手順書の作成、医薬品や資材の手配、移動手段の準備などが中心です。例えば、日本の災害現場でまとめ役となる災害派遣医療チーム（DMAT）とはパートナーシップ協定を締結。DMAT主催の訓練にも参加し、官民を超えた連携を目指しています。また、南海トラフ地震の被害が想定される複数の自治体とも、援助計画について協議しています。

日本からのスタッフ派遣状況
22の国と地域52人（2024年12月2日現在）



MSF連絡帳

領収書のお届けについて

2024年に入金いただいたご寄付の領収書の発送は、本年1月末までに終了いたしました。ご不明点などは、**0120-999-199**までお問い合わせください。例年、この時期は電話が大変混み合います。早めにご連絡をいただけますようお願いいたします。

確定申告について

MSF日本への寄付は税制優遇措置（寄付金控除）の対象となります。当団体の領収書を添付の上、認定NPO法人に対する寄付として確定申告を行うことで、税金が還付されます。詳しくは、国境なき医師団ウェブサイトをご覧ください。

© Ayano Kinoshita

ニュースレター ACT! 2025年2月号

発行元　特定非営利活動法人　国境なき医師団日本
〒162-0045　東京都新宿区馬場下町 1-1 FORECAST早稲田FIRST 3階

寄付・ご登録情報に関するお問い合わせ

TEL 0120-999-199 通話料無料

平日9:00～18:00／土日祝日、年末年始休業

※ご住所など、ご登録の情報についての変更や、「毎月の寄付」の変更は上記までご連絡いただくか、マイページでお手続きください。

※2024年12月の情報を基にしています。
最新の情報は国境なき医師団ウェブサイトをご覧ください。

マイページはこちらから

遺贈に関するご相談・お問い合わせ

TEL 03-5286-6430 担当者直通

平日10:00～17:00／担当：荻野、今尾、小芝

国境なき医師団ウェブサイト www.msf.or.jp

LOY2501